

2020年度全日本ライフル射撃競技選手権大会 25mピストル女子60発競技



令和2年11月13日から15日の間千葉県総合スポーツセンター射撃場において、2020年度全日本ライフル射撃競技選手権大会（25mピストル競技）が行われ、体育学校から射撃班所属の男子3名、女子2名が参加した。

今年度開催予定だった国内ピストル競技は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、これまですべての大会が中止となっていた。久々の競技会に選手たちはそれぞれ緊張の面持ちで会場入りした。

山田3曹 予選を1位通過で集中を加速

大会2日目に行われた25m女子60発競技において山田聡子3等陸曹が初優勝の成果を取め、来年開催予定のオリンピックへ弾みをつける結果となった。

精度を競う精密射撃30発と精度とスピードを競う早撃ち（3秒で1発ずつ5発を6セット）30発で行われた予選を1位（567点）で通過した山田3曹は、決勝の直前「特に緊張はしていない。あとは、自分の射撃をしっかりするだけ。」とすでに集中していた。

接戦の決勝、制したのは山田3曹

一発のミスも許されない接戦となった決勝で山田3曹は、予選2位通過の佐藤明子選手（警視庁/リオ日本代表）との白熱した戦いを繰り広げた。会場はその緊張感に包まれ、観客も固唾を飲んで見守った。

決勝は1回に5発を10回行い、4回目の射撃が終わった時点で最下位の者から脱落、以降毎回射撃が終わるごとに最下位の選手が脱落していくいわゆる“生き残り”をかけた勝負だ。

4人が残った8回目の射撃終了時、山田3曹と佐藤選手が22点で同点の1位に並んだ。ミスが許されない状況で、プレッシャーが重く両選手にのしかかった。

9回目の射撃でリードしたのは山田3曹だったが、そのリードはわずか1点、数ミリのずれが勝敗の分かれ道となる。

10回目、最後の射撃で1点を守り抜き勝利したのは山田3曹。全ての射撃が終了すると、会場はその緊張から一気に解かれ、歓喜の拍手に包まれた。

試合後山田3曹は「この大会を開催してくれた協会をはじめとするスタッフの方や、支えてくれているみなさんに本当に感謝しています。まだまだ課題があるなかでどうやって自分の射撃をしていくかをテーマに一日一日を大切に頑張りたい。」と振り返り、「世界で戦うために585点を目標に頑張りたい。4月の選考会では、一つしかない代表権を必ず獲りにいく。」と今後の決意を表した。



初優勝の喜びを噛みしめる山田3曹（写真中央）



いつものルーティーンで集中する山田3曹



総合成績（入賞者）

ラピッド・ファイア・ピストル男子60発競技

25mピストル女子60発競技

第4位 2等空曹 楠本 喬平（北海道）

優勝 3等陸曹 山田 聡子（滋賀県）

第6位 2等空尉 森 栄太（静岡県）

